

## 【ポスター発表】

**ステップファミリーを対象としたライフストーリーワークの応用可能性  
— ストレングス—レジリエンスモデルにもとづく支援ツールのプロトタイプ作成—**

○ 梶山女学園大学 小柴住まゆ子 (06307)

キーワード：ステップファミリー・ストレングス—レジリエンスモデル・ライフストーリーワーク

**1. 研究目的**

ステップファミリーを背景にした子ども虐待は古くて新しい問題である。今日でこそ、本家族形態は虐待リスクの1つと明示され、その特性に応じた家族教育・支援の必要性や継続的に見守り、寄り添う支援といったソーシャルワーク実践が求められている。しかし、標準家族を基準とした夫婦、親、子育てをめぐる相談支援がいまだ一般的である状況を前に、現場ではステップファミリーに対し何を具体的に支援や指導するのかが曖昧なままであるという問題が指摘されている（大澤 2012, 池田 2015）。社会福祉学において未着手であったステップファミリーへの見守り、寄り添うソーシャルワークの方法としてストレングス—レジリエンスモデルにもとづく支援方法の構築をめざし、本研究ではライフストーリーワークに焦点化し（1）支援ツールのプロトタイプ作成とそれを介した（2）ステップファミリー周期の推移から継親子関係の形成・変容過程、当事者や家族構成員のレジリエンスをめぐる可視化と考察をめぐるソーシャルワークの意義と可能性について検討することを目的とした。

**2. 研究の視点および方法**

ジェネラリスト・ソーシャルワークとポストモダンの視座から志向する家族レジリエンスを重視したソーシャルワーク方法論（得津 2018）の視点に立脚する。その展開方法としてアセスメント支援ツール「エコスキヤナー」と、当事者と支援者の対話から新たな意味づけや価値づけにより自己理解を深めるライフストーリーワークに焦点化し、相互補完する2つの支援ツールを介した展開方法を構想している（小柴住 2020）。本報告では、ライフストーリーワークをめぐる先行研究調査から支援ツールの効果や意義を踏まえた新たなツールの開発と応用可能性について考察を行った。

**3. 倫理的配慮**

本報告における引用・参考文献等については著作権保護にもとづき研究目的以外に使用しないことを誓約するとともに、日本社会福祉学会研究倫理規程を遵守し、先行研究を引用・参照した場合にはその存在を明示する。

**4. 研究結果****（1）支援ツールのプロトタイプ作成**

先行研究（才村ら 2016, 高松 2015 他）から、当事者とその継親子関係の形成・変容過程や家族レジリエンスが可視化できる可能性あるツールとして「自分の年表を作る」「幸せ

の原型ワーク「人生紙芝居」等が確認でき効果が実証されていた。これらを応用し、中央に「0」のベースラインを記した透明フィルムのワークシートと色紙の濃淡で識別可能にしたステップファミリーの発達周期シートを作成した。展開方法は次の2局面を想定している。①ワークシートの上部を安定、平穏、喜び等、下部を不安定、葛藤、嫌悪等の言葉で意味づけられる出来事を当事者の主観的理解から曲線で描く。②描かれた曲線を介した当事者と支援者の対話をもとに発達周期シートを裏から重ね、離婚・再婚をふまえた現在に至るまでのステップファミリー形成過程への俯瞰的理解を促す。

## (2) 継親子関係の形成・変容過程と家族レジリエンスの可視化と考察をめぐる可能性

先行研究における効果を踏まえ、本プロトタイプの構造から次の2つの効果が期待できると考えられた。①当事者家族の変容過程が可視化され、日々の生活で生じる混沌とした問題、例えば継親子間の子育て方法、初婚再婚夫婦間の関係性、インサイダー・アウトサイダー構造等により抱く葛藤や不安等、ステップファミリー固有の問題を周期の特性として一般化でき、論理的かつ俯瞰的な視野や発想から家族形成への理解を促すことができると考えられる。②ワークシートのベースラインより下部から上部にむけ上がる曲線に着目し、浮上する要因や条件、方法等をレジリエンスという強さに着目した解決志向で対話することで、家族構成員だけでなく近親、近隣、地域を踏まえた家族レジリエンスに気づくこともでき、予防策や対処法の糸口を利用者とともに共創できると考えられる。

## 5. 考察

本支援ツールを介したソーシャルワーク実践は、主に生活の変容過程理解によりステップファミリー支援に欠かせない「自己覚知と家族教育」「ストレングス・レジリエンスの発見と活用」から家族エンパワメントを可能にし、これまで曖昧であった見守り、寄り添う支援の具体的な方法として応用できるのではないかと考えた。実際に活用することで必要な対話（質問フォーム）が見出せると考える。今後は、ステップファミリーを対象としたプロタイプでの実証研究に着手し、展開方法の改善にむけ取り組むとともにアセスメント支援ツール「エコスキャナー」の開発にも取りかかりたい。

### 【引用・参考文献】

- ・池田ひかり（2015）「ソーシャルワークの実践現場における支援面での改善すべき点とその方法」SAJ, 野沢慎司編監訳『国際シンポジウム 2015 ステップファミリーの子どもと大人の未来のために報告書』77-79.
- ・大澤朋子（2012）「家庭支援専門相談員の機能と家族再統合」『社会福祉』（日本女子大学）53, 57-73.
- ・小柴住まゆ子（2020）『日本離婚・再婚家族と子ども研究学会第3回大会論文集』17
- ・才村眞里, 大阪ライフストーリー研究会（2016）『今から学ぼう！ライフストーリーワークー施設や里親宅で暮らす子どもたちと行う実践マニュアル』福村出版
- ・高松里（2015）『ライフストーリー・レビュー入門ー過去に光を当てる, ナラティブ・アプローチの新しい方法』創元社
- ・得津慎子（2018）『家族主体ソーシャルワーク論ー家族レジリエンス概念を手掛かりに』ナカニシヤ出版